

## 認知症予防学会と予防専門士の来し方とこれから



日本認知症予防学会理事  
医療法人社団川瀬神経内科クリニック理事長 川瀬康裕

日本認知症予防学会は2011年4月に発足して5年目を迎えます。2014年暮れにG8認知症サミットが英国で開催され、各国の担当するテーマが決まりました。日本のテーマは「認知症予防とケア」で、これに基づいて安倍首相のアジェンダ宣言のもと、2015年1月から新たに新オレンジプランがスタートしました。今では認知症予防がごく当たり前のことと理解されるようになりましたが、本学会はそれまでの認知症疾患研究、ケアの時代から、パラダイムシフトして認知症予防を標榜しました。旧来の枠組みにとらわれずに若い世代が多職種間で活発な意見交換ができる場として学術集会を開催してきました。

2011年の米子から始まり、北九州、新潟、東京、神戸、そして今年2016年は仙台で開催が決まっています。米子では100題の一般演題と約600人の参加がありました。回を増すごとに演題数、参加者数も増えて昨年の神戸では180題の一般演題と900人以上の参加がありました。各回のテーマは第1回「認知症の予防時代の幕開け」、第2回「認知症予防の可能性を探る」、第3回「匠と語り部の出会い-多職種協働と地域連携-」、第4回「認知症予防とまちづくり-コミュニケーションの再構築-」、第5回「エビデンスレベルの高い認知症予防を目指して」であり、それぞれ特色のある集会となり、成果を上げてきました。

学会の事業として認知症予防専門士の育成と、エビデンス作りが柱となっています。私は認知症予防専門士制度委員会委員長を拝命し、まず認知症予防専門士テキストブックを作成しました。毎年、秋の学術大会併催の認知症予防専門士講座を開催し、春に学会主催の講座を米子、北九州、新潟、東京で定期開催し、毎年2月に東京で学会主催の講演会を開催してまいりました。現在、学会主催の講座は認知症予防専門士講座に加えて、資格を取得した人向けのスキルアップセミナーを実施しております。現在、認知症予防専門士の認定者は170名を超え、認定試験も昨年度から東京で開催されております。

認知症予防専門士制度委員会では、今後新しいカリキュラムの策定とテキストの改訂の準備が進められています。また認知症予防専門士の弟分として、認知症予防フレンドの育成が始まります。新オレンジプランの三本柱は①認知症の病状に応じた医療介護サービスが必要に応じて受けられるケアパスの確立②認知症の人に優しい町づくりと予防の出来るまちづくり③本人や家族の視点を中心に据える、とされていますが認知症予防専門士がこの三つの目標に貢献ができるよう今後も努力してまいります。認知症予防専門士が地域での実践やフィールド研究を学会で発表し、論文誌に掲載されることを期待いたします。